

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	TAKUMI堺		
○保護者評価実施期間	令和 6年 7月 29日		～ 令和 6年 8月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	令和 6年 7月 29日		～ 令和 6年 8月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和 6年 8月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが通所を楽しみに思ってくれている。	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的視点で、支援を行っています。 ・発達段階に合わせたグループ分けを行い、充実した職員配置で支援を行っています。 ・個々のニーズに合わせた個別療育の実施を軸に、日常動作訓練、創作的活動、機能訓練、集団生活適応訓練を日々の活動に取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、支援の充実を図れるように日課の工夫、活動プログラムの工夫を行っていきます。 ・職員の資質向上、地域支援につながる研修会参加、実施。 ・保護者様に分かりやすくフィードバックできるツールの活用を検討する。
2	充実した活動支援プログラムの構築ができている。	<ul style="list-style-type: none"> ・5領域を踏まえて、スタッフの強みを活かした支援を行い、活動内容やグループ分けの工夫を行っています。 ・指導員や友だちと一緒に、運動に親しみながら遊べるように環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年の支援について、更に社会性を中心とした支援が充実するよう工夫していきます。
3	手厚い支援体制。	<ul style="list-style-type: none"> ・電話やメール等での相談があった場合には、時間調整を行いながら、ご家族の思いに寄り添い、一緒に方向性を導き出せるように面談等を行っています。 また、必要に応じて、本人、ご家族、きょうだい支援を行っています。 ・各職員が個々に関わりを持ち、療育に携わっている。個々の療育内容を職員間で共有し、スモールステップを全員で分かち合うようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見を聞きながら、安心して子育てできる環境を整えていきます。 ・子育てサポート加算や家族支援加算を定期的に活用して保護者様への相談援助やフィードバックを大切にしていこう。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	今年度、入職したスタッフが多いため、ご家族との面識がまだ薄いスタッフが多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・面談や担当者会議に出るスタッフが限定される場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くのスタッフが親御さんと面識が持てるように、会議への参加の工夫、情報発信の工夫を行っていきます。
2	事業継続のための職員増員、資質向上。	<ul style="list-style-type: none"> 人材確保、利用者支援の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員での会議開催がなかなか実施できないので、会議録閲覧、朝夕の連絡会等で情報共有していきたい。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	TAKUMI堺
------	---------

公表日 令和 6年 8月 31日

利用児童数 年月日

回収数 8

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8	0	0	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	6	2	0	0		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	4	0	0	4		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8	0	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	7	0	0	1		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6	0	0	0	※未回答2件	
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	7	0	0	1		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7	0	0	1		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8	0	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8	0	0	0		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	1	2	1	4		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8	0	0	0		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	8	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	0	0	0		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状態について共通理解ができていますか。	8	0	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	0	0	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8	0	0	0		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	1	2	2		
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6	0	0	2			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8	0	0	0	気になった事があって、間違えて定休日にLINEをしたことがあったが、すぐに返信があり解決してくれた。	緊急時を除き、基本的には営業時間内のみのご対応となりますが、その中でもなるべく早く対応できるように努力いたします。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5	1	0	2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5	1	0	2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6	0	0	2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6	0	0	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6	0	0	2		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	8	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	7	1	0	0	・行き渋りはあるが、行くと楽しんで帰宅する。 ・TAKUMIに通ってから膝の使い方が分かって嬉しいと話しています。	今後も楽しんで活動に参加頂ける様に職員一同、全力で取り組んでまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	8	0	0	0	・とても満足しています。 ・出来る事が増えて、前向きに考えられるようになった。 ・振替日の相談など、日中は忙しく夜になる事もあるが対応してくれて予定が組みやすく助かります。	今後も引き続きご満足いただける支援を心がけてまいります。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	TAKUMI堺				公表日	令和 6年 8月 31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		ガイドラインにて推奨される児童発達支援事業に必要な2〜3倍の床面積がある。状況に応じてエリア分け等で、適切なスペースを確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		児童指導員を加配しており、基本的に指導員3名体制で運営している。また同時に利用する人数から見ても適切な人数であると考えている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		建物入り口から事業所まで段差は無く、事務所内も開放的な形に加えて、開き戸には指詰めカバーを付けたりイラスト付きの案内を各部屋に貼り、視覚的に分かりやすくする等、バリアフリー化や環境に配慮している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		サービス提供後には必ず清掃、消毒を実施している。指導訓練室には怪我防止の為、角を保護したりする等、運動療育に適した空間にしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		状況に応じて、相談室や更衣室を友好的に活用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		職員全員で支援終了後にミーティングを行い、情報共有と記録を作成し、個別支援計画を基に課題に対する支援を実施、振り返りを行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		毎年保護者に対しアンケートへの協力を依頼し、ご意見を真摯に受け止めると共に、可能な範囲で最大限の業務改善を図っていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	1	事業所として自己評価を行いHPにて公開していく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4		現在は実施していない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		社内研修を行い、職員の資質向上を図っている。今後も継続し、外部の研修に関しても参加を検討していく。	
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		4		今年度中にホームページに支援プログラムを公表予定。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		保護者と直接面談を行い課題やニーズを把握し、職員間で支援計画についてのミーティングを実施して作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		保護者と直接面談を行い課題やニーズを把握し、職員間で支援計画についてのミーティングを実施して作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		保護者と直接面談を行い課題やニーズを把握し、職員間で支援計画についてのミーティングを実施して作成している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		アセスメントシートを用いて適応行動の状況を把握している。また日々の記録を個別に作成し都度確認できるようにしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		運動療育を主に提供している為、発達支援が中心の支援計画になっているが、保護者との面談やフィードバック時などに聞き取りを行い、子供の支援に必要な項目を適切に選択している。また児童発達支援ガイドラインにもあるように利用児童本人のニーズも適切に把握できるように支援を行っている。	

な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		職員間でミーティングを行い、活動プログラムを組み、実施している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		複数の指導員が原案を作成し、ミーティングで以前の内容確認も実行実施する内容を決めている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		基本的には集団活動を行っているが、保護者と面談を行い、必要・希望に応じて個別活動を取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		支援開始前には毎日ミーティングを行い、支援の内容や役割分担について確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		支援開始前には毎日ミーティングを行い、その日行われた支援を振り返り、気付いた点などを共有・記録している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		利用児童ごとにサービス提供記録と日報に支援内容、課題、気付いた事、特記事項を記録し、支援の検証・改善も図っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直し必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		最低でも半年ごとに保護者と面談及び職員間で支援計画ミーティングを行い支援計画の見直しの必要性を判断し、更新している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4		総則の基本活動の内、主には「自立支援と日常生活の充実のための活動」及び「余暇の提供」を組み合わせ提供している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		個別支援計画にも「家族の希望」「子供の希望」の枠を作り、面談時には必ずヒアリングしている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		サービス担当者会議には児童発達支援管理責任者が基本的に参加し、どうしても参加出来ない時は、情報をまとめて相談支援専門員に提出し、内容を共有して頂くなどで対応している。今後も継続するとともに、参加者については臨機応変に対応していく。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	1	広く連携している訳ではないが、利用者の利用している他事業所とは連絡を取り、情報共有する事もある。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		送迎を行っていない為、学校との情報共有はほとんど行っていないが、保護者を介して学校の情報は頂いており、必要に応じて学校に対して個別に連絡等は行っている。	サービスの質を高めるため、必要に応じて対応していく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4		現在において事業所との情報共有は行っていないが、保護者を介して情報を頂いたり、報告している。必要に応じて直接の情報共有を検討していく。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4			現在まで該当の児童が在籍していない。今後対象の児童が居る場合は対応できるようにしていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4			現在連携等出来ていないため、状況に応じて研修等への参加を検討していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4			希望に応じて検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4			今後は前向きに検討していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		支援終了時に毎回指導員が支援内容や目的、児童の状態等を直接話し、保護者からの意見やニーズも受け止め、共通理解を持てるようにしている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	1	ペアレント・トレーニングとしては実施していないが、保護者から相談等があった場合は適切に対応している。		
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時に説明しており、質問があった時には直ぐに正確な情報が伝えられるようにしている。		

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		個別支援計画にも「家族の希望」「子供の希望」の枠を作り、面談時には必ずヒアリングしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		適切な手順を踏んだうえでガイドラインに沿った内容の支援計画を作成し、保護者に直接説明を行い、同意を頂いている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		面談は定期的を実施しており、その他にも利用後のフィードバック時に相談があった場合はその都度回答し、職員間で共有、記録している。 1人の判断で回答できないものはミーティングを経て回答している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		4		現状は保護者同士の連携を支援していない。 希望があれば検討していく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		苦情・相談等についてはマニュアルに沿って適切に対応していく予定。対応の体制は整備しており、契約時に説明もしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4		連絡体制の情報や行事予定等もLINEアプリや掲示物等で適宜発信している。 Instagramアプリで情報発信もしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報が含まれるものはファイリング後に書庫保管を基本とし、廃棄する場合はシュレッターにかけて廃棄している。今後も継続し、個人情報の取り扱いには細心の注意を払っていく。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	1	利用児童に合わせて伝達のタイミングや方法に配慮している。保護者に対しては、文書と口頭で伝える等を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		特に行っていない。必要に応じて検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		名称は違うが左記マニュアルと同様のマニュアルは策定しており、研修を通じて職員に周知しているが、保護者には周知出来ない。保護者への周知方法を検討していく。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		定期的に避難訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4		利用開始前に面談を行い聞き取りを行い、職員間で共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		食物アレルギーについては面談時に聞き取り、職員間で共有しているが、食事を提供することが無い為、指示書等は管理していない。必要に応じて対応していく。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		法令に則り、計画の作成・定期的な研修や訓練の実施などを行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		保護者様に見て頂けるよう、教室内に掲示している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		事例が起きるごとに作成し、職員内で共有している。また今後の対応などをミーティングし改善を図っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		定期的に虐待防止委員会会議、研修を行い虐待防止に努めている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		緊急時である場合などを考えると、現場の指導員に最低限の裁量がある事は否定できないが、組織的に適用条件・適用後の対応などを決定し、保護者には契約時に丁寧に説明し同意を頂いている。また個別支援計画にも記載している。今後身体拘束に関する研修を行い、職員間で共通認識を持てるように取り組んでいく。		